

文理学部と桜師会との連携

齊間 文也¹⁾

「教職支援センター」が、年ごとに内容が充実し実績も積まれ「教師教育と実践知」創刊号を発刊することをおめでとうございます。

「教職支援センター」の開設は、教員志望学生の指導を組織化し一体化して学生を育成しようとするに大きな意味があるように思えます。「授業」で教育の理念を学び、「教職支援センター」では、論作文や面接など演習形式を中心とした指導内容に触れ、「教育インターンシップ制度」を窓口としての学校ボランティア活動など教育現場での実践経験とそれぞれお互いが連携を取りながらの「学び」から「就職」までのキャリア教育は大学にとって必要であり大切なことであると思います。

学校教育には「入口論」と「出口論」があります。どちらも大切で切り離して考えることはできませんが、ともすると学生・生徒募集や入学試験のありかたと「入口論」に重きが置かれがちですが、卒業という出口での進路状況は大切なことであり学校の将来をも左右しかねないこともあります。特に、最終学年である大学は社会へ、社会にどのような有為なる学生を送り出すのかは大学の大きな課題であり同時に使命でもあるかと思えます。今、文理学部が教育界に「教育理念」を持った「実践力」のある学生を育て送り出そうとしている姿勢は高く評価されるであろうし期待も大きなものがあります。

平成25年7月に行われた日本大学全国桜師会総会の講演で、学部長加藤先生は文理学部の教員養成について、本学の「自主創造の精神」とあわせ「いかに社会が変化しようとして自ら課題を見つけ主体的に判断し、よりよく問題解決する教員を養成

したい」また、実践力を養うためにも「教育支援センター」を開設したいと述べておられます。今、「教職支援センター」の適切な指導が教員志望学生達の励みになり支えになっているとの報告はうれしくもあり、今後の更なる発展が望まれます。我々全国桜師会としても採用試験対策などに会員の先生方に講師を務めてもらうなど「教職支援センター」への協力体制は整えています。

全国桜師会は校友の先生方が上級職試験対策として研修会を大学本部を借りて始めたのが発端とされており。昭和40年に、本学出身の先生方と本部関係者として「桜師会」が創設され(1)会員の研修と親睦(2)教員志望学生の支援等を主たる目的とし、50余年の歴史を有し現在に至っています。伝統的な学生への支援は「教員志望学生研修会」と題して、現職の先生方が講師となり、年3回開催し、毎回学部を問わず多くの学生が参加してくれています。内容は、教員採用試験対策講座、合格体験記、論作文、模擬授業、面接指導、指導教員のもと学生同士が「教育とは」「教師とは」などテーマを決めてのRole-Playなどを主として行っています。昨年、8月に行った1泊2日の合宿研修の経験を生かし、内容を高めながらこれからも続けていく予定です。今後も、一人でも多くの学生の支援が出来ればと考えています。

1886(明治19)年、時の文部大臣森有礼は、師範学校令を公布し教員養成を師範学校に委ねたとされています。本学にも、東京高等師範学校(東京教育大学、現在の筑波大学)、東京女子高等師範学校(お茶ノ水女子大学)に続き、1901年に文理学部の前身の一つとされる「高等師範部」が設立され、中等教育の教員の養成が行われ、以来、

1) 日本大学全国桜師会

教育界に幾多の人材を送り出し、現在も多くの先生方が教育現場で活躍していることは、「教育の文理」の誇りでもあり財産でもあると思います。

「生きる力」と言う言葉は、平成8年の第15期中教審第1次答申に初めて見られ、今に至るも学校教育の大きなテーマの一つになっています。物を作り形が見えた20世紀と違い、知識を資源とした「知識基盤社会」の時代と言われる21世紀に「生きる力」をどう育むかは今まで以上に大きな課題であることは間違いないことではありますが、どのような状況にありましても、真摯に愚鈍なまでに教育と課題に向き合う泥臭く骨太の教師がいつの時代でも求められていると思います。

「教育は時代と共に在る」と言われるようにおよそ10年に一度見直される学習指導要領が平成32年小学校をはじめとして年を追って中学・高等学校と進められ、改定の中心が今までの教科を中

心としての「何を教えるのか」と教える側から「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」と児童・生徒を中心とした視点からの改定と言われ、また、少子化等教育環境が大きく変わり厳しいものがある中、教育が教員の質が問われています。「新しい時代の義務教育を創造する[答申]」第2章には「人間は教育によってつくられると言われるが、その教育の成果は教師にかかっていると言っても過言ではない。そのためには、(1) 教職に対する強い情熱 (2) 教育の専門家としての確かな力量 (3) 総合的な人間力」と教員の質の向上が求められています。我々は、このことを心して、未来ある子供たちを安心して預けられる「確かな教育理念と実践力のある幅広く人間性豊かな教師」を一人でも多く育て教育界の期待に添うべく文理学部と全国桜師会とのより密度の濃い連携を大切にしたいと考えています。